

竹川竹齋 たけがわ 開國論者、歌人。文化六年五月二十五日伊勢國飯南郡射和村生れ、明治十五年十一月一日歿（二八九一八二）。講政肝 まことせす、字子廣、幼名馬之助、通稱新共衛、彦二郎、のち竹齋。號古葛園、射和文庫創建主人、竹川家舊 源政肝等。母は國學者荒木田久老の娘宮子。叔父荒木田久守は國學を學んだ他、儒學、洋學にも通じた。嘉永六年「海防護國論」を著はして知己勝海舟に送附、勝を通じて幕閣に提出。翌年後編を冊して開國を唱へた。また射和文庫を創設、一萬巻の書籍等を以て教育の用に供した。一方古萬古燒の再興を期して築窯、茶寮栽培を奨めて山野を開墾せし製茶事業に奔走。漫遊二年勘定奉行小栗上野介（忠順）の要請で東上、國華の諮問に答へ、次でイギリス公使パークスと面接、更に大坂に至つて老中小笠原重岐守（長行）と會談するほど、その進言、識見を以て重用せられた。

『竹川竹齋』（榎本義宗執筆・竹川竹齋刊行委員会編、第三版・昭和六十二年十一月一日）二重・竹川竹齋翁百年祭実行委員会）がある。

